

生き生き 科学科

2026
第2回

ウェルビーイング大学
生きとし生けるものが幸せな
世界を創る学部
～生きとし生けるものの幸せを
科学的に考える学科～

生き生け科学部(論文部)

**生きとし生けるもの(以下、生き生け)が幸せな世界を創る
がGOALの学部。**

における

生きとし生けるものの幸せを科学的に考える学科。

なので、半年間で、

“生き生けの幸せを願う”ことに対して、

科学的な観点から、深掘り、対話し、血肉にしていく
ことを目指す。

(あと、揺さぶってあげたらなああと。)

GOALと取り組み方

科学的アプローチ

- ・客観性と主観性
- ・批判的思考
- ・還元主義と全体論
- ・暫定性

を元に

一人一人の中で、
①“生き生け”とは何か？
②それとどう向き合って行くかを定めて、
生きとし生けるものが
幸せな世界を創る道を
歩み出すこと。

生きとし生けるものの幸せを願う とは？

生きとし生けるものの 幸せを 願う

“生きとし生けるもの”って何？
動物まで？植物まで？細胞やウィルスは？
Gや牛(ステーキ)、風邪ウィルスも含む？
法人も人だけ含まれるのか？
生きないものは、対象外？

“幸せ”って何？
人間以外の幸せとは？
生きないものの幸せとは？
願うだけで
良いの？
行動
しないの？

そもそも、幸せを願うのが良いの？
愛する、好きになる、感謝する、
調和する、一体となる？

どんな人が、生きとし生けるものの幸せを願えるの？(モチベーション)
どんな行動につながるの？(行動)
そもそも、生きとし生けるものの幸せを願う、方が良いの？

生き生け科学部 進め方と予定

●進め方

30分インプット、30分対話

●予定

6/20 : 生き生けとは？

7/20 : 心理学★今回

8/20 : 生物学/神経科学

9/20 : 哲学/宗教学

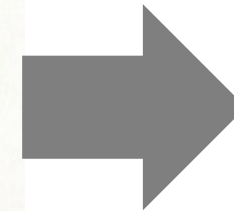
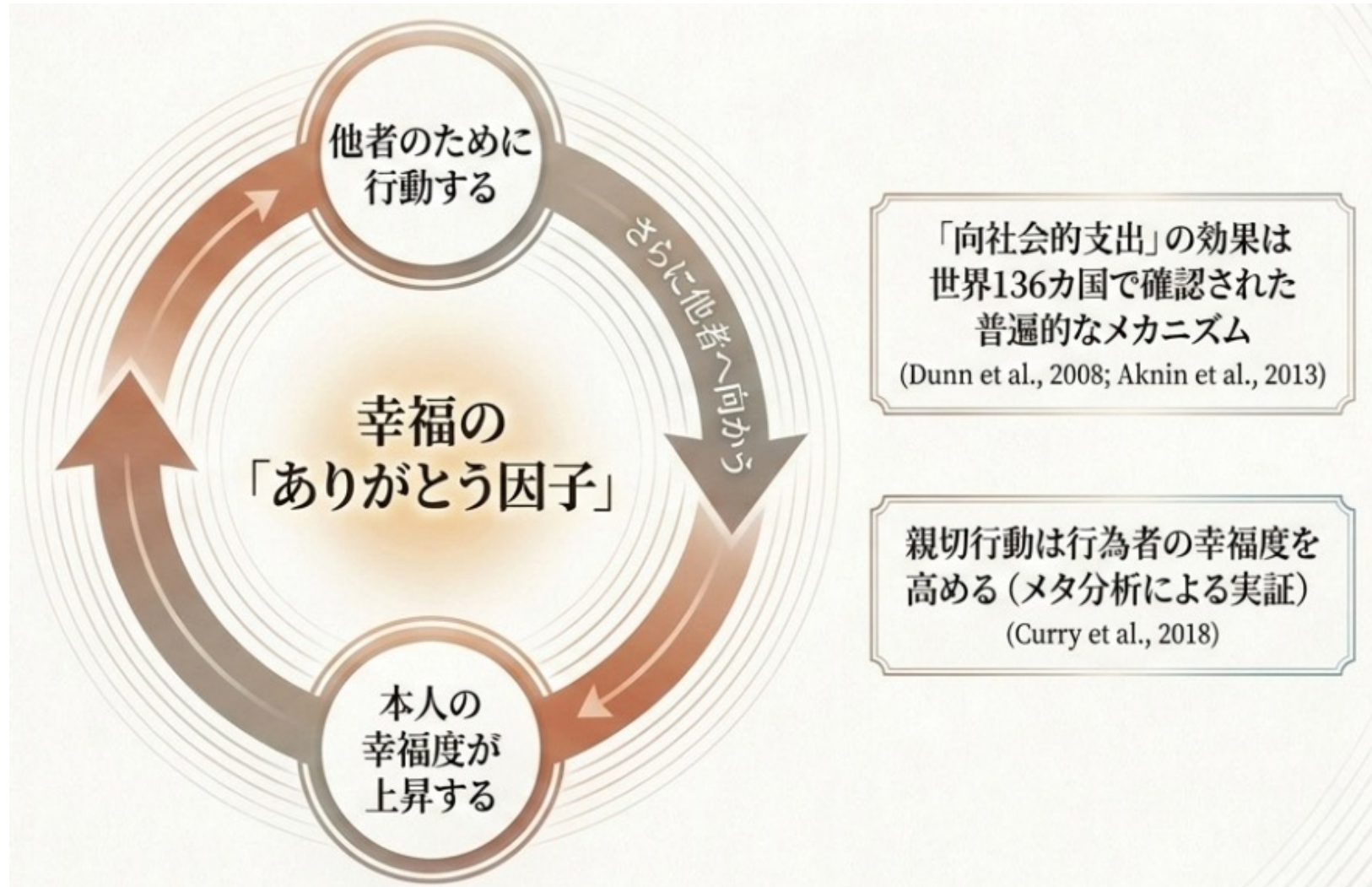
10/20 : まとめ

11/20 : 発表(学び+生き生けへの考え方の変化)

心理学 と 生き生け

- ①利他は幸せにつながる。その究極。
- ②実践：慈悲の瞑想
- ③広さ：対象(モラルサークル) × 時間(世代性)
- ④スピリチュアリティ：
ワンネス信念(主客合一)、畏敬の念(大いなるものを感じる)
- ⑤整理：成人発達理論

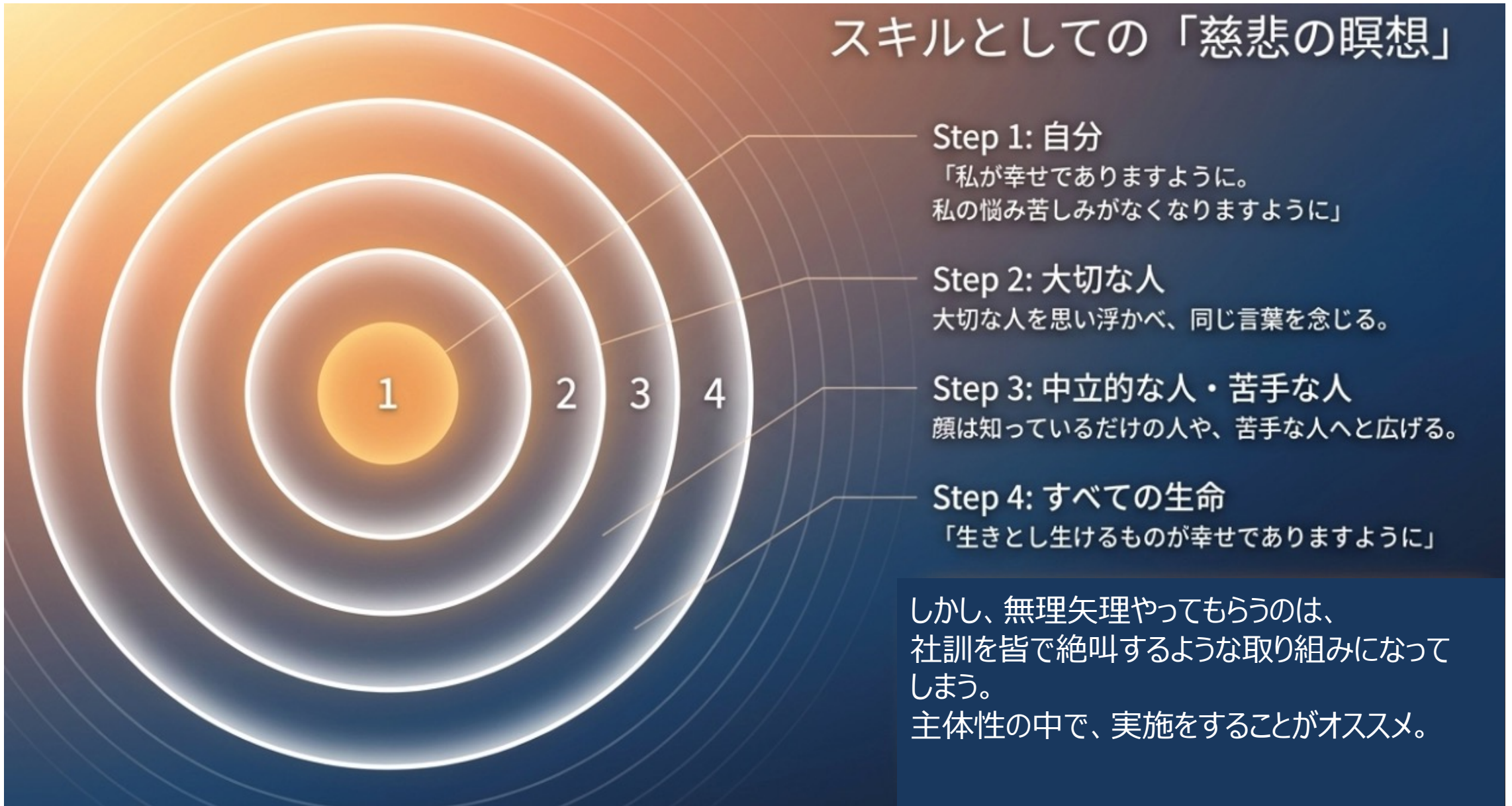
利他は幸せにつながる。



生き生け

型としての、慈悲の瞑想

スキルとしての「慈悲の瞑想」



慈悲の瞑想はウェルビーイングにも効く

ポジティブ感情の増加、社会的つながりの向上、抑うつ・低減、マインドフルネスの向上、人生の目的、社会的支援などにも効果有。実際の利他行動が増える(寄付、席を譲る)、共感疲労や偏見が減る。ただし、人生満足尺度(認知的幸せ)への効果は小さい。また、セルフコンパッション(自分への思いやり)が低い人だと、効果がかなり大きい。

↑ 共感披露が減るとするのが面白い！これが願うことの効果なのかも。



ポジティブ感情の増加

メタ分析 24研究・N=1,759。LKM実践は喜び・感謝・希望などの日常的ポジティブ感情を高めた。

中程度の効果量

Zeng ら (2015) *Frontiers in Psychology*



抑うつ・軽減・マインドフルネス向上

RCTのメタ分析。慈悲系瞑想は抑うつを有意に低減し、マインドフルネスを高めた。

抑うつ $g = -0.61$ / MF $g = 0.63$

Galante ら (2014) *J. Consult. Clin. Psychol.*



社会的つながりの向上

わずか数分のLKMでも、初対面の他者への肯定感・つながり感が外顕・潜在の両指標で上昇。

短時間でも効果

Hutcherson ら (2008) *Emotion*



感情資源と生理指標の好循環

7週間の実践でポジティブ感情↑→人生の目的・社会的支援↑、抑うつ↓。迷走神経緊張との上昇スパイラルも示唆。

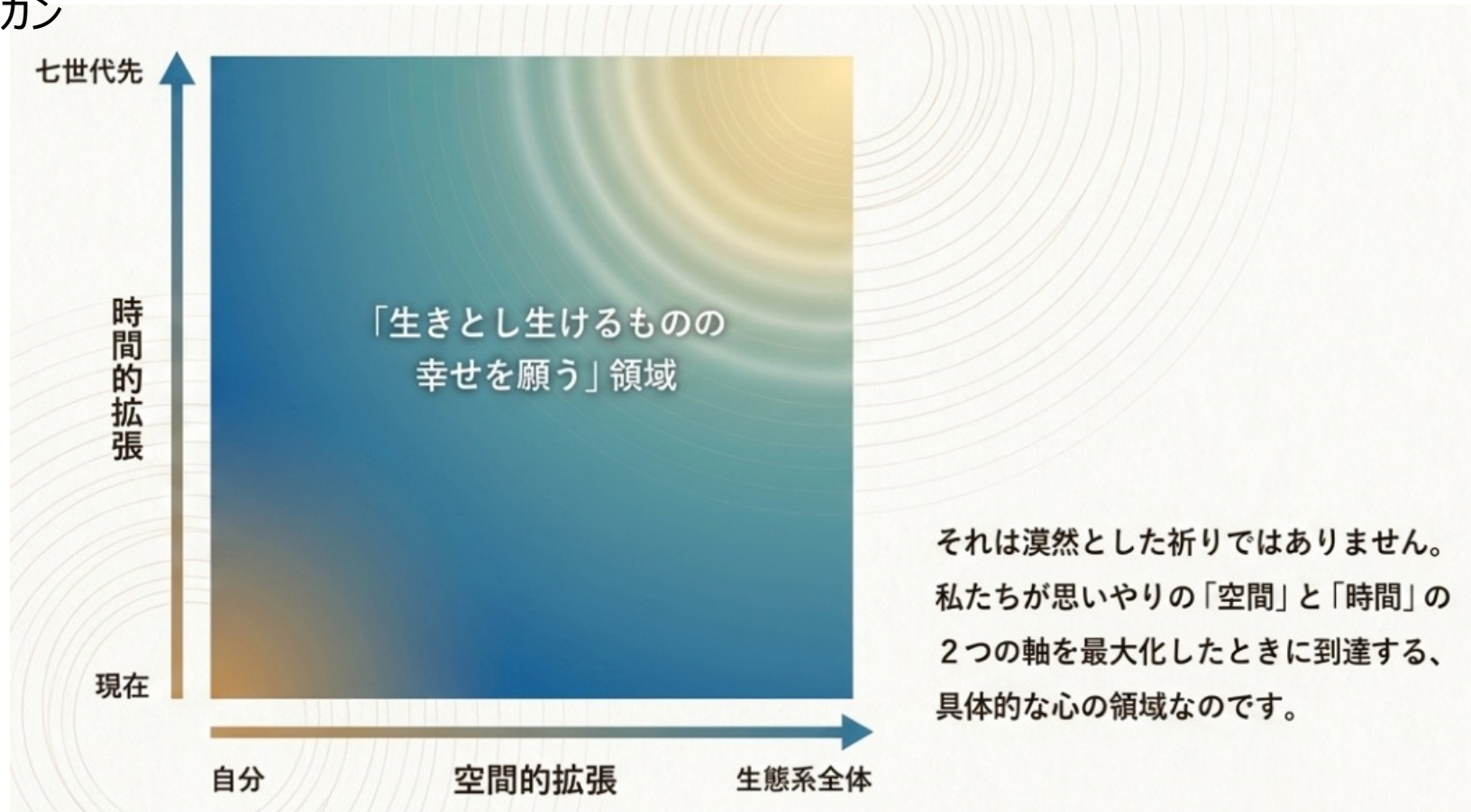
「拡張-形成」理論を支持

Fredrickson ら (2008); Kok ら (2013)

対象の範囲

世代性

ネイティブアメリカン
7世代の原則



モラルサークル

※ただ、
モラルサークルは広さ×深さがあるから、
本当は3次元かも。

モラルサークル

Lecky (1869)が「歴史とともに人間の道徳的感情の対象が家族→部族→国家→人類へと広がってきた」と論じ、Singer (1981)が『The Expanding Circle』でこれを倫理学の中心概念に据えた。

Crimston et al. (2016)がMoral Expansiveness Scale (MES)を開発。対象の広さ×深さで測る。→心理学の領域へ。

MESの得点は、自己犠牲の医師やボランティア行動などの向社会的行動につながる。
共感性・開放性・リベラルな政治的志向と関連。

■ Moral Expansiveness Scale (MES)

深さ(0-3pt)

・内円:3pt

その福祉を保障する道徳的義務があり、
その処遇に個人的責任を感じる

・外円:2pt

道徳的処遇への関心はあるが、
義務と個人的責任の感覚は大きく減じる

・道徳的配慮の周縁:1pt

最小限の道徳的配慮と地位には値するが、
その処遇への道徳的義務も個人的責任も負わない

・道徳的境界の外:0pt

道徳的配慮にも地位にも値しない。
この対象への配慮や責任を感じることは行き過ぎか無意味である

広さ(10カテゴリ、30種)

- ▼家族・友人：家族の一員、親しい友人、パートナー・配偶者
- ▼内集団：自国の市民、近所の人、職場の同僚
- ▼外集団：外国の市民、対立政党支持者、異なる宗教
- ▼尊敬される人々：大統領、自国の兵士、慈善活動の従事者
- ▼周縁化された人々：同性愛者、知的障害のある人、難民
- ▼悪人：殺人者、テロリスト、児童性犯罪者
- ▼高感覚性動物：チンパンジー、イルカ、牛
- ▼低感覚性動物：ニワトリ、魚、ハチ
- ▼植物：セコイアの木、リンゴの木、バラの茂み
- ▼環境：サンゴ礁、原生林、グランドキャニオン国立公園

モラルサークルの国際比較

日本は57カ国中、56位(最下位はロシア)
スコアは6.93

なので、自国内くらいまで。

(1位のバングラディッシュは、ほぼ12なので、地球内の動物まで。
アメリカは、ほぼ9なので、人類まで。)

全体的には、寛大な国ほど広い。

ただし、宗教圏では寛大さに関係なく、
モラルサークルが広い。

(日本は寛大さ最下位)

■寛大さ

その国の日給中央値をもらった時に、何%慈善団体に寄付するか。という質問。

TOP3 : ドイツは82.80%、ブルガリアは86.44%、バングラディッシュは77.95%

最下位3 : 日本19.65%、アイルランド : 25.89%、デンマーク32.02%。

■Moral Circle Scale

道徳的に配慮すべき対象はどこまでですか？

- 1 : あなたの直接の家族すべて
- 2 : あなたの拡大家族すべて
- 3 : あなたの最も親しい友人すべて
- 4 : あなたの友人すべて (遠い友人も含む)
- 5 : あなたの知人すべて
- 6 : あなたが今まで会ったことのある人すべて
- 7 : あなたの国の人々すべて
- 8 : あなたの大陸の人々すべて
- 9 : すべての大陸の人々すべて
- 10 : すべての哺乳類
- 11 : すべての両生類、爬虫類、哺乳類、魚類、鳥類
- 12 : パラミシウムやアメーバを含む地球上のすべての動物
- 13 : 宇宙人を含む宇宙のすべての動物
- 14 : 植物や木を含む宇宙のすべての生き物
- 15 : 岩などの無機物を含む宇宙のすべての自然物
- 16 : 存在するすべてのもの

Beyond borders: The moderating role of cultural religiosity in the relationship between moral circle and generosity, Wang Zheng, Juzhe Xi, International Journal of Psychology, 2024/12

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39256926/> ※Waytzら2019版のモラルサークル

世代性(世代継承性、Generativity)

※モラルサークルと異なり、これだ！という理論はなく、様々な観点・尺度がある。

・Erikson (1950)が生涯発達8段階の第7課題「世代性 vs 停滞」として提唱。次世代を確立させ導くことへの関心と定義。

・McAdams & de St. Aubin (1992)がLoyola Generativity Scale (LGS)を開発。→心理学の測定へ。

・得点は人生満足度・心理的ウェルビーイングと正の関連、抑うつと負の関連(関心のみ、行動は無相関)。

中年期(40～60歳)に顕在化し、外向性・開放性と関連。

・IIBI(公平な世代間善意):Syropoulos et al. (2026)、世代数マッピング:Syropoulos et al. (2025)、LBS(ロングターミズム信念尺度):Law et al. (2024)。など、近年色々な尺度が生まれている。

■ Loyola Generativity Scale (LGS)(McAdams & de St. Aubin, 1992)

・世代性への「関心」を測る20項目、4件法(0～3pt、逆転6項目)、合計0～60pt ・以下はAI訳

▼内的欲求(象徴的不死・必要とされたい)に寄る項目

- ・自分は死後も長く記憶されるだろう
- ・自分の貢献は死後も残ると感じる
- ・死後に残るようなことは何もしていない(逆)
- ・他の人が自分を必要としているとは感じない(逆)

▼関心(狭義)に寄る項目

- ・教師のような仕事は自分に向いている
- ・人に教えたいと思う大切なスキルを持っている
- ・自分の住む地域をより良くする責任が自分にはある

▼人類への信念に寄る項目

- ・社会がすべてのホームレスの人々に食料や住居を提供する責任を負うことはできない(逆)
—社会の責任能力への信念を問うており、実は個人の関心ではない

▼コミットメント(意図)に寄る項目

- ・子どもを持っていないなら養子を迎えたい——唯一の未来意図項目

▼行動(自己報告された過去・現在の行為)に寄る項目

- ・経験から得た知識を人に伝えようとしている
- ・他の人に影響を与えるものを作り出してきた
- ・たいていのことで創造的であろうとしている
- ・慈善活動のボランティアには参加しない(逆)
- ・さまざまな人・集団・活動に関わり責任を引き受けてきた
- ・自分の行動は他の人に良い影響を与えていない(逆)
- ・他者に貢献する価値のあることを何もしていない(逆)
- ・多くの人の人生に影響を与えてきた

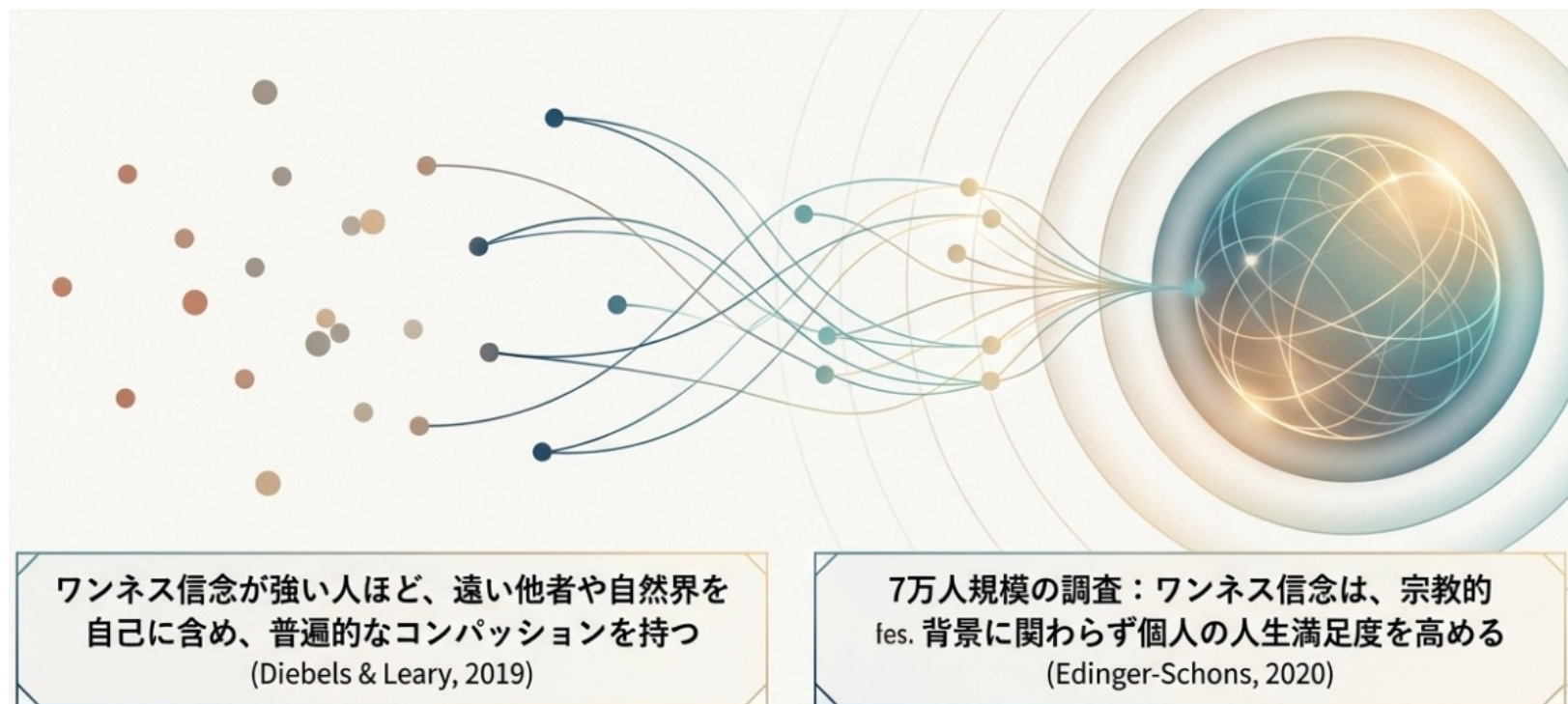
▼ナラティブ(自己物語・映し出された自己像)に寄る項目

- ・社会に独自の貢献をしてきたと周りの人は言うだろう
- ・周りの人は自分をとても生産的だと言う
- ・人からよく相談を受ける——「他者の目から見た世代的な自分」という語りの素材

スピリチュアリティ(精神性)



ワンネス信念



●ワンネス信念尺度(Belief in Oneness Scale) (Diebels & Leary, 2019)※直訳

1. 表面的な見かけを超えて、すべてのものは根本的には一つである。
2. 一見別々のものが数多く存在しているように見えるが、それらはすべて同じ全体の一部である。
3. 現実の最も基本的なレベルにおいて、すべてのものは一つである。
4. 個々のもの間の分離は幻想であり、実際にはすべてのものは一つである。
5. それを「精神」と捉えようが、「意識」と捉えようが、あるいは「量子プロセス」と捉えようが、何であれ、すべてのものは同じ基本的な物質から成り立っている。
6. 同じ基本的な本質が、存在するすべてのものに浸透している。

※あかちゃんは主客合一かも。

●近い概念

・身体/体験

主客合一(西田幾多郎)

ゾーン・フロー

サウナのととのい、水風呂

変性意識状態

・精神性

社会構成主義

インタービーイング

(ティック・ナット・ハン)

自己超越(マズロー)

梵我一如

↔

心身二分論(デカルト)

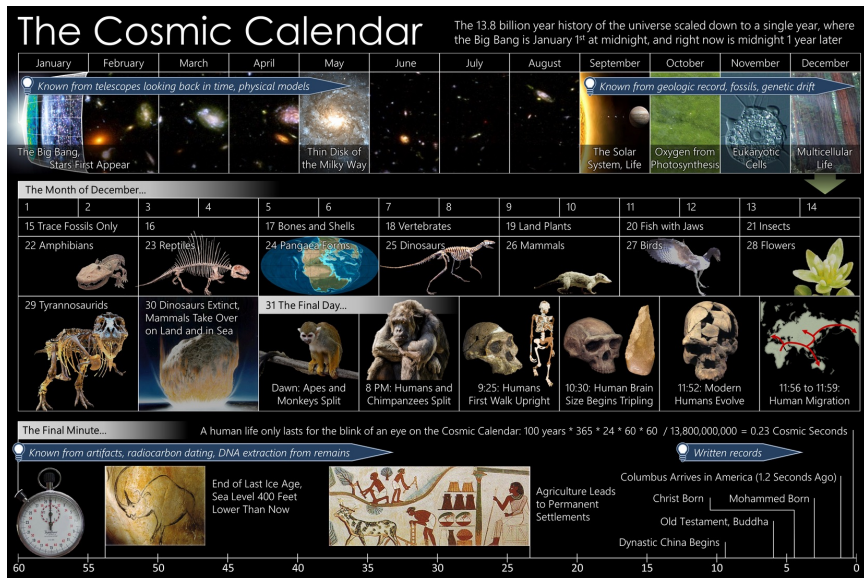
※ワンネス信念の広さも必要では？

自分の心と体、自分と周りの空間、

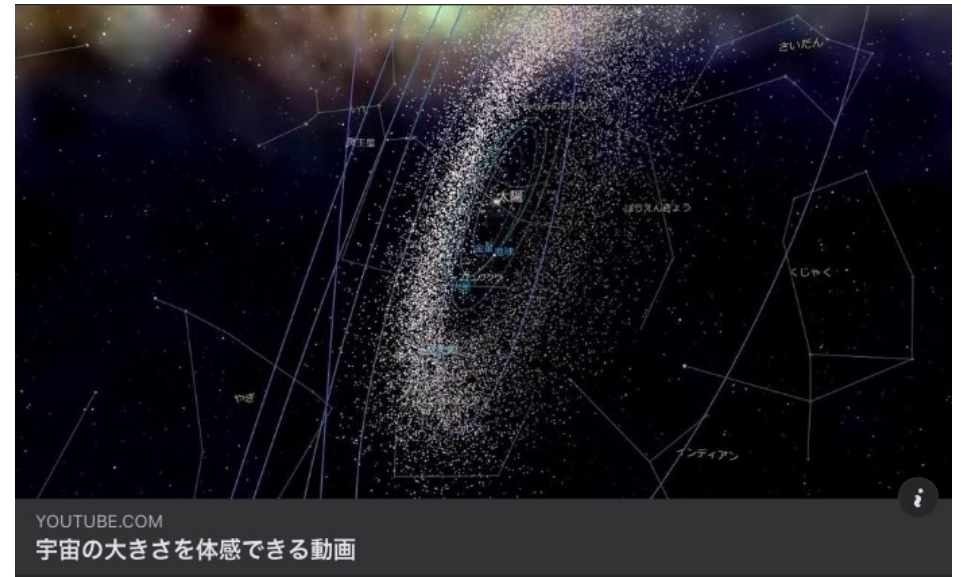
自分と周りの人、自分と世界の人、自然、世界

畏敬の念：AWE(オウ)

より大きなものを感じ、自分の小ささを知る。と幸福度が高まる。
大自然に触れる、のが最も一般的。
ただし、アートや音楽、写真などもAWEにつながる。



時間的なAWE
(Cosmic Calendar)



空間的なAWE

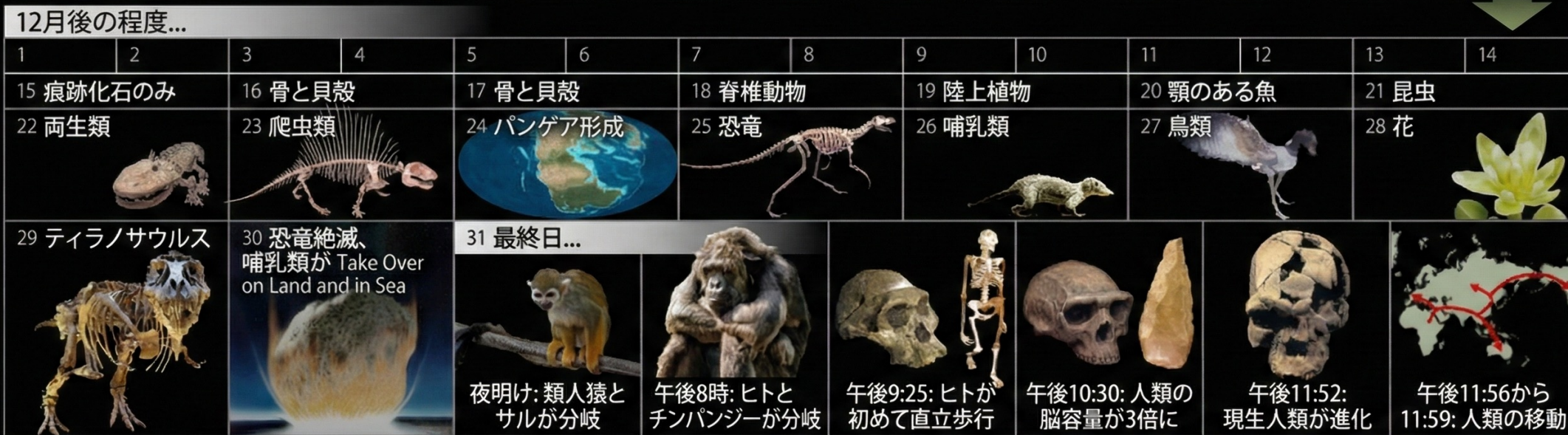
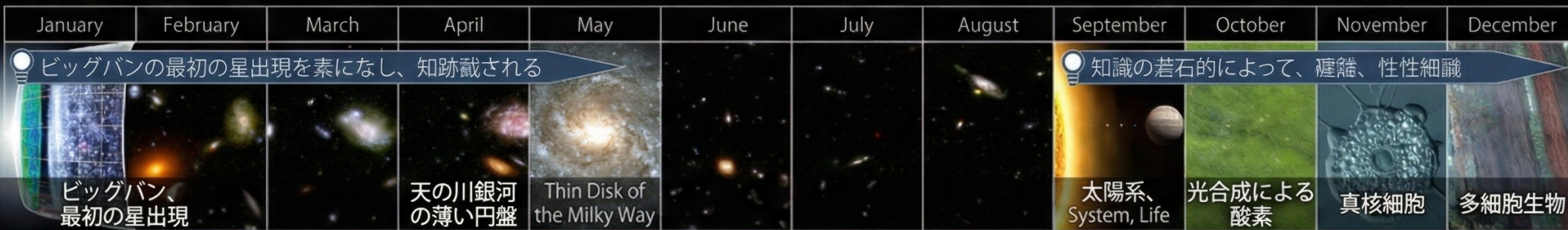
時間的な
AWE
地球の
歴史を
1年に
すると。

人間の
歴史は
1分くらい。

地球は元々
1つだったから、
ワンネス。
という考え方も。

宇宙カレンダー

宇宙の138億年の歴史を1年に縮尺し、ビッグバンを1月1日午前0時、現在を1年後の12月31日真夜中としたもの。

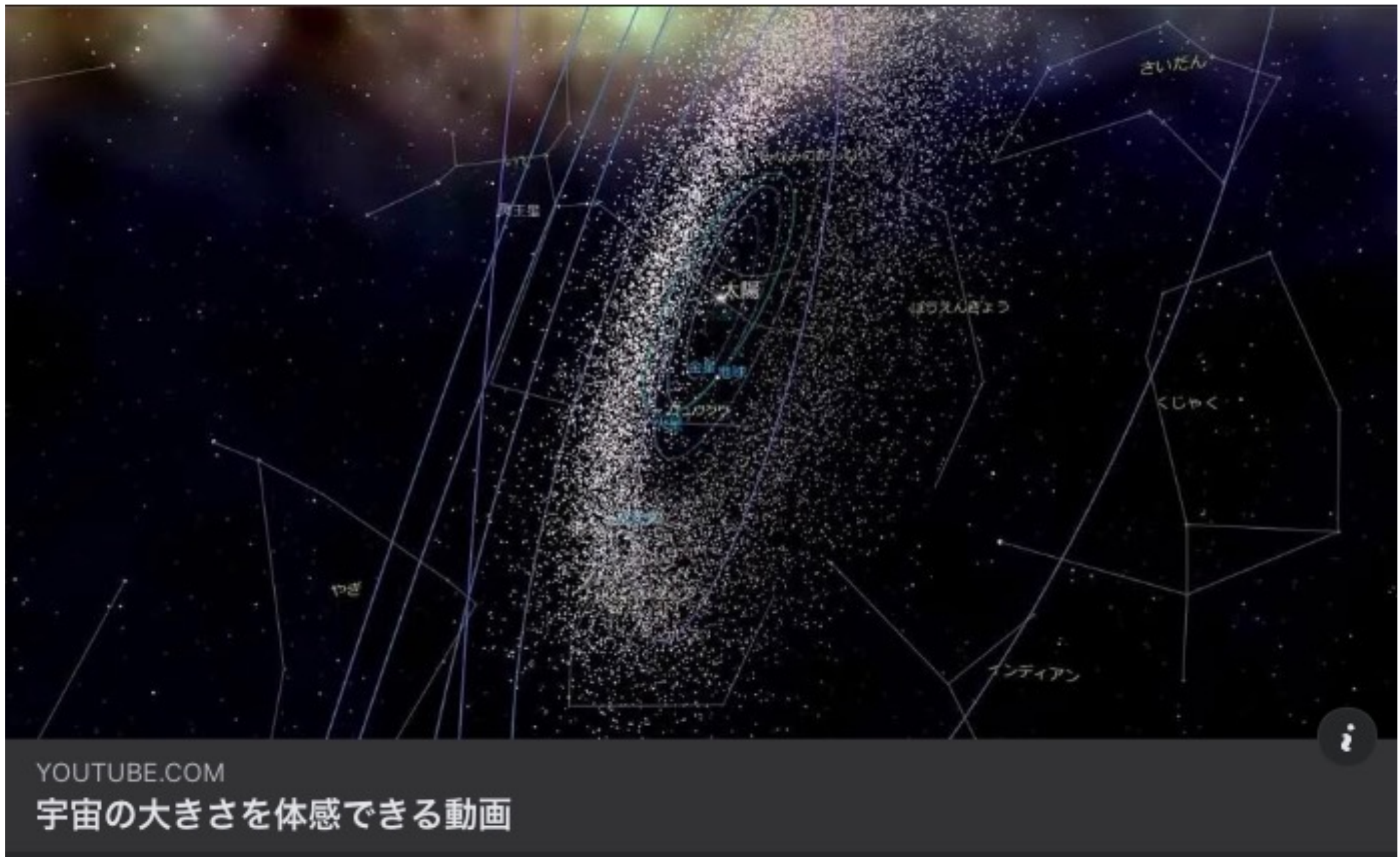


最後の1分... A human life only lasts for the blink of an eye on the Cosmic Calendar: $100 \text{ years} * 365 * 24 * 60 * 60 / 13,800,000,000 = 0.23 \text{ Cosmic Seconds}$



空間的な AWE

<https://www.youtube.com/watch?v=jM02C3uSBXY>



成人発達理論の段階

※発達段階は、
ロバート・キーガン先生の段階を参考



レッド
道具主義

世界は自分中心。
利己。

人口の
数%

力で
場を支配



アンバー
環境順応・他者依存

他人の価値観を
基準にする。非利己。

人口の
1-2割

規律と
秩序を守る



オレンジ
(外発的な)自己主導

自分の価値観で
生きる。利己。

人口の
2割

競争に勝ち
成果を出す



グリーン
相互発達

愛と利他。

人口の
1割

多様性を認め
共感しあう



ティール
自己変容・統合

世界とつながる。

人口の
数%

エゴを捨て
世界とつながる

※アンバーから
オレンジへの
移行期が3-4割

※割合は、米国/成人での調査
(Loevinger)

成人発達理論と生き生き

あくまで私とAIが対話して作成したものです。

	道具主義(レッド)	環境順応(アンバー)	自己主導(オレンジ)	相互発達(グリーン)	統合/自己変容(ティール)
世界観	世界はジャングル。奪うか奪われるか、食うか食われるか。信じられるのは自分の力だけ	世界は秩序ある階層。正しい道は一つで、人には決まった居場所と役割がある。世界は変えるものではなく、従うもの	世界は攻略可能な機械。法則を理解すれば予測し、操作できる。世界は進歩するものであり、努力は報われる(べきである)	世界は多様な声の共同体。単一の正解はなく、それぞれに真実がある。世界は対話によってより善くできる	世界は生成し続ける生命体。固定した実在ではなく展開するプロセスで、自分もその一部。世界は制御する対象ではなく、耳を澄まして仕える相手
道徳的配慮の二軸(誰まで×いつまで)	誰まで=自分と血縁・手下(輪の外は資源か脅威)。いつまで=今日と今週。配慮の円も時間も、腕の届く範囲	誰まで=ウチ(家・村・会社)。いつまで=先祖から子孫へ(家の存続という過去起点の長期)。空間は狭いが、時間は意外に長い	誰まで=契約と交換のネットワーク。いつまで=自分のキャリアと自分の代(計画できる時間)。空間は広がるが、時間は自分の一生に縮む	誰まで=人類・弱者・動物へ。いつまで=子や孫の世代(持続可能性)	誰まで=生態系・未来世代を含む生命の全体。いつまで=七世代先・遠未来。過去と未来の両方に開かれた現在を生きる
「生きとし生けるものの幸せを願う」の定義	概念の外。願うのは自分の利得と、せいぜい身内まで	宗教的な定型句・儀礼として唱える(初詣の家内安全の延長)。実質的に願いが向かう範囲は身内と仲間まで	きれいごと、あるいは合理化して解釈する(「みんなが幸せなら社会が安定し自分も得をする」)。幸せは願う対象ではなく成し遂げる対象	共感の輪の拡大。人類、動物福祉、地球環境へ関心が広がる。ただし観念的な理想になり、遠くの人類を愛しつつ身近な一人に苛立つ、が両立してしまうことも	慈悲の実践そのもの。自他の境界が緩み、相互依存の実感から願いが自然に湧く。願いと日々の行為が一致していく
心と体のつながり	心身未分化。感情は即、身体と行動になる(怒り=手が出る)。体の訴えは無視するか、暴発する	体=我慢の器(「体調管理も仕事のうち」)。心の不調は身体という言葉でしか語れない――肩こり・胃痛・不眠という翻訳(心身症の主戦場)	心身二元論の実践者。体=心を載せる機械であり、メンテナンスと数値管理の対象。心の疲れをカフェインとサプリで上書きする	つながりの再発見(ヨガ、マインドフルネス、ソマティクス)。感情が体に出ることを知り、体から心を整える回路が開く	心身一如。体の声が意思決定の情報になり(ソマティック・マーカー)、体を通じた直観が信頼される
森・自然との付き合い方	自然=狩場と資源(奪う対象)、または己を試す試練の場(サバイバル)	自然=恵みと畏れの対象。山の神、祭り、里山の手入れという型。自然との付き合いに作法がある	自然=リフレッシュの道具。森林浴のストレス低減効果、キャンプ、サウナ。自然も効能とコンテンツとして消費される	自然=感じる相手。五感を開くリトリート、森林セラピー、自然の中での対話。自然とのつながりの回復そのものが目的になる	自然=師であり鏡。ソロ(単独で自然に入る時間)、自然から人生と組織の原理を学ぶ。自分も自然の一部だという体感

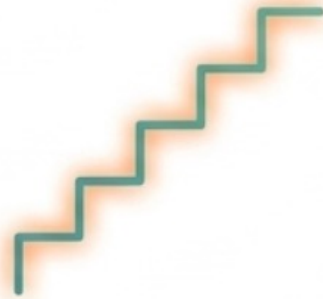
成人発達理論の3つのリアル

① 前段階の「包含」



前の段階を捨て去るのではなく、包含しながら発達する。ただし、判断の「ベース」が変わるため、考え方や行動様式は根本から変化する。

② 「飛び級」はない



1段階飛ばして発達することはない。必ずすべてのプロセスと葛藤（モヤモヤ）を経る必要がある。（※日本人にそのまま当てはまるかは今後の研究余地あり）

③ 「文脈」への依存



人は一つの色に固定されない。場面ごとに変わる（例：家庭ではグリーンだが、職場ではオレンジとして振る舞うなど）。

各段階で、学ぶこと

なので、一つ一つの段階を
味わった方が良い。

Amber

Amberで学ぶ事

- ・ 規律、秩序、役割の遂行
- ・ 衝動の抑制と長期的な視点の獲得
- ・ 周囲の気持ちと期待に気付く力
- ・ 「安定した基盤」の構築力

Orange

Orangeで学ぶ事

- ・ 自律性、合理性
- ・ 目標設定と計画実行
- ・ 論理と客観性
- ・ 交渉と自己主張
- ・ システム思考と効率化
- ・ 説明力
- ・ 「成果」を生み出す力

Green

Greenで学ぶ事

- ・ 共感の幅
- ・ 多様性の受容
- ・ 傾聴や対話
- ・ 他者の視点と感情の理解
- ・ 複数の視点を同時に保持する力
- ・ 曖昧さへの耐性
(ネガティブ・ケイパビリティ)
- ・ 文脈を読む力

Teal

Tealで学ぶ事

- ・ 全体性
- ・ 矛盾を抱えたまま動く力
- ・ 直観と論理の統合
- ・ 今ここにある力
- ・ エゴを超えた視点

對話編輯

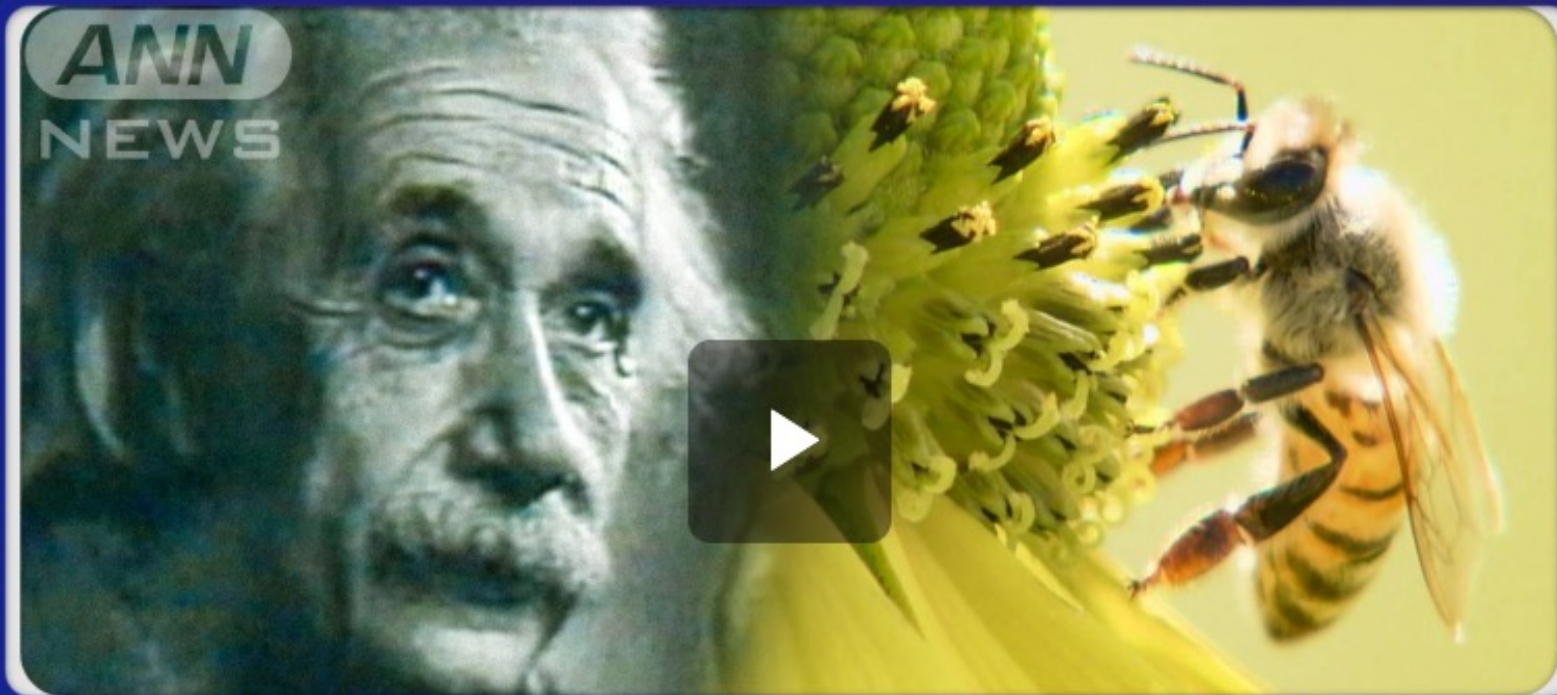
対話のその前に。

- 3つの質問をします。
- 1つの質問は2回。2回の間には小話を入れます。
- 小話によって、
幸せを願える度がどう変化したかを
覚えておいて下さい。

人を刺してくるハチ。
ハチの幸せを願えますか？

ハチの小話

アインシュタインが警告した未来が目の前に!?“ミツバチ絶滅”で人類に迫る食料危機



「人類は4年で滅亡」

※ただし、
アインシュタインが言ったかどうか、
は不明瞭。明確な出典がない。

人を刺してくるハチ。
ハチの幸せを願えますか？

もし、願えるようになったなら、それは損得？

日本の生態系を壊している
アメリカザリガニの
幸せを願えますか？

アメリカザリガニの小話

ガニの物語

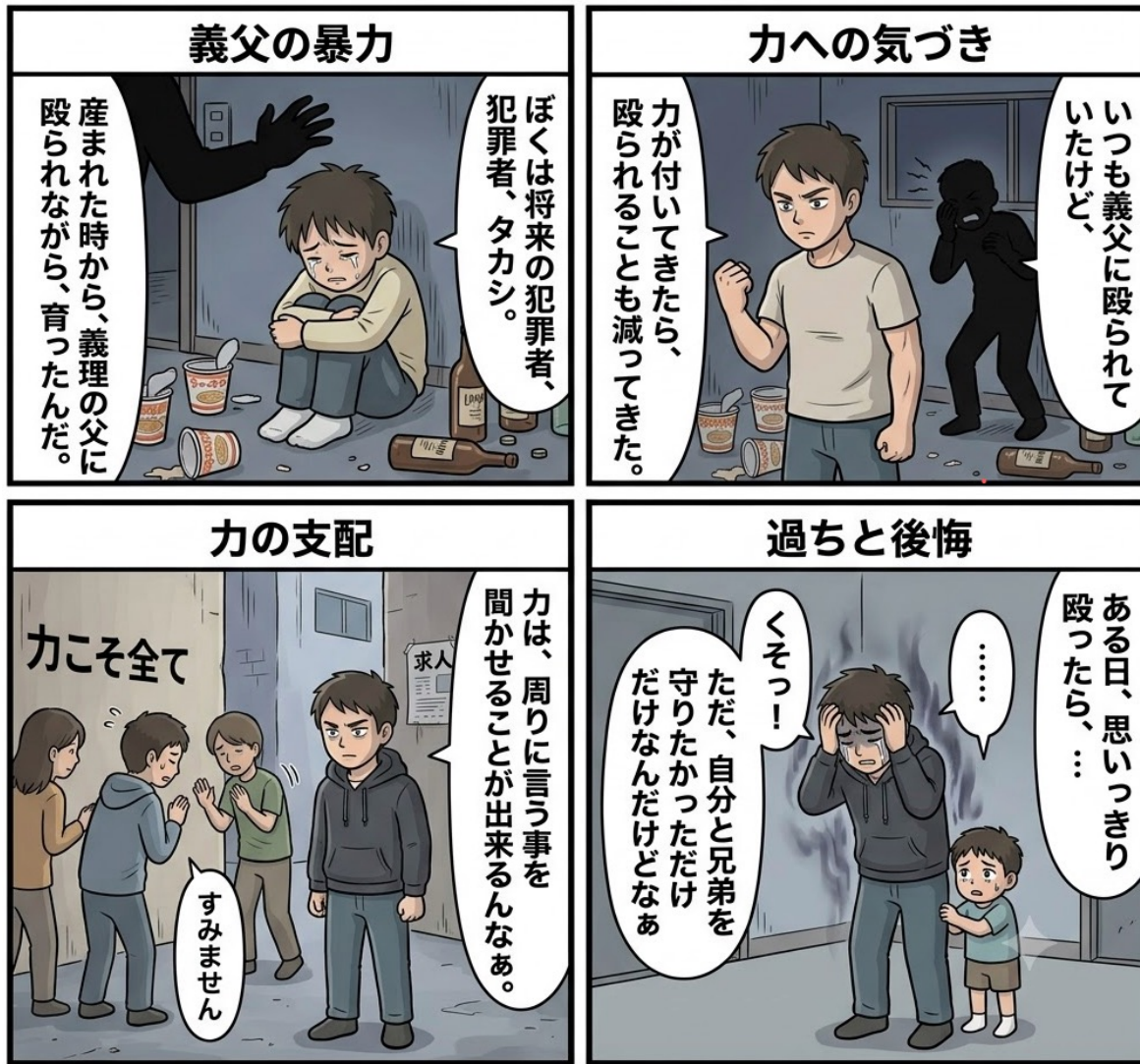


日本の生態系を壊している
アメリカザリガニの
幸せを願えますか？

もし、願えるようになったなら、それはガニーが良い人だったから？

犯罪者の幸せを
願えますか？

タカシの物語



犯罪者の幸せを 願えますか？

もし、願えるようになったなら、それは慈悲？

対話

生きとし生けるものの幸せを願う、について、
本日の感想、思ったこと、思いの変化など自由に。

他にも

初回と比べて、生き生けの幸せ願える度は変わった？
何が、その変化を生み出した？
など。

※参考

	道具主義(レッド)	環境順応(アンバー)	自己主導(オレンジ)	相互発達(グリーン)	統合/自己変容(ティール)
ハチに刺されたとき、どう思うか	「殺す!」——反撃し、巣ごと叩き潰しに行く。痛み=攻撃であり、攻撃には報復で応える	「刺されるようなことをしたかな」「バチが当たったのかも」——自分の落ち度や運命として意味づける。そして民間療法の型(おばあちゃんの知恵)に従って手当てする	原因分析と対策——なぜ刺された?(黒い服、香水、巣への接近)→次回の予防策、アナフィラキシーのリスク検索、ポイズンリムーバーの購入。痛みもマネジメントの対象	「ハチも、巣を守ろうとしただけなんだよな」——相手の事情への視点が生まれる。生態系の中の出来事として受け止め、痛みは痛みとして感じ切る	「痛い!」とまず全力で痛がる(今この瞬間の純粋な体験)。それから手当てはオレンジの手順で淡々と行い、やがて笑い話にする——刺されたことも含めて、今日という日
外来種問題(アメリカザリガニ)をどう見るか	獲って遊ぶ・食う対象(ザリガニ釣りの獲物)。問題という認識自体がない	「昔からいる身近な生き物」——実は外来種なのに、昭和の原風景に組み込まれてノスタルジーの対象になっている。駆除には「かわいそう」の情が湧く	管理と防除の対象(駆除数の目標、防除計画、そして食用化・資源化の提案)。問題は解くもの、生き物は資源	ジレンマに苦しむ——ザリガニに罪はない(勝手に連れてこられただけ)。個体への共感と生態系への配慮が衝突し、駆除への抵抗感と必要性の理解の間で引き裂かれる	生態系全体の健康のために、個体の命を絶つ責任を引き受ける——感傷でも冷酷でもなく。駆除した命を食べる、供養する(殺生を様式で敬う日本の伝統:魚供養・針供養の系譜)
犯罪者の幸せを願えるか(自分が被害者ではない場合)	願わない(「ぶち込め」「同じ目に遭わせろ」)。被害者でなくても報復感情が燃える——義憤は代理のレッド	「罪を償ってから」(条件付きの承認)。世間が許すなら自分も許す。更生した元受刑者の美談は好むが、隣に住むのは嫌(承認と距離の二重基準)	合理の問題として処理する——更生は再犯率を下げ、社会のコストを削減する(幸福そのものより、機能の回復を願う)。感情より制度の話	願える(犯罪の背景——貧困、虐待、孤立——への理解。「生まれた環境が違えば、自分だったかもしれない」。ただしこの理解を被害者の前で語る無神経さには最大の注意	願える——ただし甘さからではなく、「その人が本当に幸せになることが、もう誰も傷つけなくなる」という理解から。円の外に落とされた人を、円に戻す意志
犯罪者の幸せを願えるか(自分が被害者だった場合)	報復(自分の手で)。復讐が生きる目的そのものになり得る	司法と世間に委ねつつ、恨みは抱え続ける(「絶対に許さない」が心の錨になる——そしてそれが生存を支える時期も、確かにある)	加害者に自分の人生を支配させない、という合理(「あの人間のことを考える時間がもったいない」)。切り離して前へ進む——ただし、処理されない感情は水面下に残る	赦したい自分と、赦せない自分の共存を認める(葛藤の道)。同じ痛みを持つ人との連帯が支えになる	赦し=加害者のためではなく、自分を恨みから解放するための選択(「恨みは、自分が毒を飲んで敵が死ぬのを待つこと」)。そして——願えなくてもよい。願えない自分に罪悪感を持たないことも、また回復のかたち

【補足】

●ハチに刺されたとき、どう思うか

同じ刺激(ハチの一刺し)に、5通りの物語が付く——出来事(A)ではなく意味づけ(B)が反応(C)を作る、というABC理論(REBTの行)の最小教材。仏教の「二の矢」の教えがそのまま重なる:第一の矢(痛みそのもの)は誰も避けられないが、第二の矢(痛みに付け足す物語の苦しみ)は選べる——報復の矢(レッド)、自責の矢(アンバー)、分析への逃避の矢(オレンジ:感じる前に対策に飛ぶ)、と第二の矢の種類が段階で違い、ティールは第一の矢だけを受けて、第二の矢を放たない。研修のアイスブレイクとして最強の問い:「昨日ハチに刺されたとします。最初に頭に浮かぶ言葉は?」——笑いながら、自分の意味づけの癖(=段階の窓)が見える。痛みとの向き合い方・防御反応の行と対

●外来種問題(アメリカザリガニ)をどう見るか

この問いの本質=モラルサークルの円の内部衝突。円を「生態系」まで広げた瞬間、個体への配慮と系への配慮が矛盾する場面が必ず生じる(ザリガニの幸せとゲンゴロウの幸せは両立しない)——つまり円の拡張は優しさの単純な増加ではなく、トレードオフの調停責任の引き受けである。もう一つの層:ザリガニは悪ではない(1927年に人間が20匹持ち込んだ結果)——悪の所在は個体ではなく構造と歴史(闇堕ちの行と同じ論理)。だからティールの解は「人間が作った罪を、人間が引き受ける」形を取る。制度の妙:2023年の条件付特定外来生物指定(放出・販売は禁止、家庭の飼育は容認)は、全面禁止にすると大量遺棄が起きるという人間行動を織り込んだ、行動科学的に賢い設計。道徳的配慮の二軸・モラルサークル・いただきますの行と対——「生きとし生けるものの幸せ」を考える講座の、最初の難問として最適の教材

●犯罪者の幸せを願えるか(自分が被害者ではない場合)

モラルサークルの最も強い負荷試験。モラルサークル研究の発見＝人は「悪人」を植物より外側に置く(Crimston et al., 2016)——道徳の円は悪人のところで最も強く切れる。しかし実証は冷静な事実を示す:加害の多くは不幸(貧困・虐待・孤立)の連鎖から生まれ、加害者の回復は最良の再犯防止になる(北欧の更生モデル刑務所の低再犯率)。「罪を憎んで人を憎まず」は言うは易く、この行はその実装難度の見取り図。闇堕ち・ハラスメントを行う人・桓騎(発達ストーリー)の行と対

●犯罪者の幸せを願えるか(自分が被害者だった場合)

最重要の但し書き:この行は「被害者は赦すべき・願うべき」という規範では断じてない。赦しの研究(エンライトラ)が明確に示す通り、赦しは強要された瞬間に二次加害になる——赦しは回復の過程で訪れることがある結果であって、目標や義務にしてはならない。段階の高さと赦しの有無は独立している(赦せないティールもいて、むしろ「赦せない自分ごと引き受ける」ことがティール)。マンデラの言葉は、自分で選んだ時にだけ薬になり、他人から差し出された瞬間に暴力になる。犯罪被害からの回復には専門的支援(被害者支援センター、トラウマケア)への接続が大前提であり、支援者の仕事は赦しへの誘導ではなく、どの段階の反応も正当な回復の形として支えること

※マンデラの言葉

「弱い者は赦すことができない。赦しとは強い者の性質なのである」

「復讐からは何も生まれない。和解こそが未来を創る」

27年間投獄されたのち、1994年に南アフリカ初黒人大統領に就任。彼はかつての敵である白人を赦し、「虹の国」と呼ばれるすべての人種が共存する社会の実現を目指しました。